

会 議 録

名 称	令和6年度 第2回 登米市部活動地域移行準備委員会	
開催日時	令和6年8月22日(木) 午後2時 開会 午後3時36分 閉会	
開催場所	中田庁舎 101会議室	
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登米市中学校長会代表(米山中校長) 佐藤 智哉 ○ 登米市中学校長会代表(津山中校長) 森 美紀子 ○ 登米市中学校体育連盟会長(中田中校長) 富士原 昭裕(会長) ○ 登米市中学校体育連盟理事長(中田中教諭) 熊谷 篤 ○ 特定非営利活動法人登米市体育協会 会長 関 壮一(副会長) ○ 登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜 ○ 登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 佐々木 悦郎 ○ 登米ジュニア吹奏楽団 団長 只野 正昭 ○ 元中学校美術教諭 主任児童委員 及川 英之 ○ 登米市PTA連合会 会長 石川 悟 ○ 登米市PTA連合会 副会長 菅原 かおり 	
事務局等職員 職・氏名	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登米市教育委員会 教育長 小野寺 文晃 次長兼学校教育管理監 鹿野 征美 学校教育課長 猪股 勝徳 生涯学習課課長補佐 佐藤 慎 生涯学習課 主幹 高橋 美香 生き生き学校支援室長 林 宏也 生き生き学校支援室係長 及川 知美 生き生き学校支援室指導主事 熊谷 美佐子 	
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 開会の挨拶 登米市教育委員会 教育長 小野寺 文晃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みに開催された宮城県中学校総合体育大会(以下:中総体)では、多くの学校の子供たちが活躍していた。特に、わずか10人編成の新田中学校吹奏楽部が県大会で金賞を受賞し、東北大会に出場するという大変すばらしい結果を残した。子供たちの頑張りはもちろん、先生方の頑張り、地域や保護者の方々のご支援やご声援があつての結果である。 ・ 子供たちにとって活躍の場を十分に与えられている反面、中総体では合同チームでの参加が多く、急激な少子化、それに伴う生徒数の減少、各学校の部活動の設置、部員数の確保、そういった面が大きな手かせ足かせとなっているので改善が必要である。 ・ 中体連あるいは文化活動の団体では、これまで同様の様々なルールが決められており、それを無視できないということも大きな課題である。例えば合同チームをつくる際、人数の割合だけで決められており、子供たちの立場が、どこかに置き去りにされていないだろうか。場合によっては新入生が入ってきて、人数が確保できる学校、できない学校というのがあり、合同チームをつくる際に3年間の間に何度も違うチームで大会に参加しなければならない場合もある。子供たちにとっても、保護者にとっても、やはり大きな負担であり課題である。 ・ このような現状から、部活動の地域移行というのが、様々な課題を解決する1つの手だてになるのではないかと思っている。子供たちにとっては、あつという間の3年間ではあるが、我々がしっかりと考えながら、あせらずじっくりと取り組むたいが、そのことも考えると、できるだけ早く、効率的に、この地域移行に取り組んでいかなければならないのも事実である。委員の皆様には引き続き積極 	

的なご意見をいただきたい。

- 3 会長挨拶 部活動地域移行準備委員会 会長 富士原 昭裕
- ・ 北陸を中心に全国大会が行われており、登米市からも何人もの生徒が参加している。熱中症が心配された県大会、東北大会だったが重大なけがやその他の事案は入ってきていないことから、各自適切な対応をしながら参加ができたのではないかな。
 - ・ 夏休み中でも中学生は、お盆期間以外、部活動で学校に来る時間が多く、3年生も含めた活動、または1、2年生チームに新たにシフトした活動など、元気な姿をたくさん見ることができてうれしかった。
 - ・ 秋に新人大会があるが、人数が少なく単独でチームをつくれないうところが多くなってきている。登米市だけではなく、仙台市を除く県内のほとんどの地域で抱える課題であり、なかなか前向きな考え方ができていない。明るいうところを見出しながら、子供たちのために力を尽くせればと考えている。
 - ・ 委員の皆様方には、説明報告の後にご意見またはご質問等いただきながら進めていきたい。忌憚のないご意見を賜りながら、充実した会議になればと思う。

4 報告・説明

- (1) 他市町村の実施状況等について
- (2) 登米市部活動地域移行リーフレットについて
- (3) 部活動地域移行ガイドラインについて
- (4) 登米市部活動地域移行先行実施例について
- (5) その他 生涯学習課 佐藤 慎
 - ・ 中学校部活動の地域移行に係る指導者アンケート結果（別冊参照）

5 協議

- (1) 他市町村の実施状況等について
 - 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長）富士原 昭裕（会長）
 - ・ 各市町村の取り組み等が分かるので、後日、確認をしていただきたい。
- (2) 登米市部活動地域移行リーフレットの内容について
 - 登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜
 - ・ 2ページの費用について、スポーツ安全保険の自己負担についてであるが、指導者謝金などは別にしても、必要最低限な経費について、市で工面することはできないのか。他の自治体の事例を見ると、企業版のふるさと納税や企業の協力をいただきながら、取り組んでいる。登米市でも支援できる部分について、もう少し検討する余地があるのではないかな。

（事務局）

- ⇒ 今後、先行実施を含め、学校に調査を行った中で、大まかな人数や予算がある程度決まれば、例えばスポーツ安全保険のお金をふるさと納税というような支援の部分で検討の余地はあるのかなと思う。現時点難しい内容なので、今後検討していく。
- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長）富士原 昭裕（会長）
 - ・ ご意見や具体策も出していただいたので、今後検討していくということ。リーフレットには断定的な書き方をしているが、そこは検討しているという文言等に代えていくということではどうか。

- 登米市中学校長会代表（米山中校長） 佐藤 智哉

- ・リーフレットが令和6年9月からということだが、このリーフレットの内容について地域の指導者、スポ少指導者、クラブの指導者などにどれくらい周知されているのか。校長会では前回から示されており、管理職などは進行具合が分かるが、クラブやスポ少の指導者に説明会などがあったのか、周知具合を説明してほしい。

(事務局)

⇒ スポーツ少年団本部の研修会で、こういうふうな方向に進んでいますよというように検討会的なものは開催していた。ここまでの内容を指導者の方にお知らせしたかについては、改めて何かはやってはいない。何となくのイメージは分かっている方が多いのではないと思うが、現状を知らせる必要はあると考える。

○特定非営利活動法人登米市体育協会 会長 関 壮一

- ・具体的な例や、しっかりとした組織がつけられていない状況でリーフレットを出すことには不安がある。各学校で外部指導者との指導の在り方、様々な課題があることも聞いている。教育委員会自体でやっていくのか、岩沼市のように企業に委託するのかなど、しっかりとした組織や流れや形がないと問題が起きてくる部分があるのではないか。

(事務局)

⇒ リーフレットについては、部活動の地域移行というのがどういったものなのかをお知らせしたいというのが一番のメインである。この内容のような形で、移行したならば、こういうふうな費用やこういったやり方が出てきますよということをもまず知らせたい。それぞれの競技で、いろいろな方向性や意見、やり方が出てくると思われる。そういうことを踏まえながら、地域移行のプランや受け皿となる団体を決めながら、進めていければと考えている。

○特定非営利活動法人登米市体育協会 会長 関 壮一

- ・1ページ上部の「土日の部活動地域移行を進めます」とあるが、学校の部活動と地域移行の違い、在り方をどのように示すのか。

(事務局)

⇒ 今の部活動というのは平日に活動、または土日のどちらか活動。土日のどちらかに活動した場合については、平日に休むというのが県の部活動のガイドラインにも示されている。地域移行は土日の部活動地域移行なので、今まで学校で行っていた土日の部活動は行わず、地域移行で土日のどちらかを活動できるようにしてくださいということであり、平日は今まで通りの部活動である。活動自体は変わらないが、土日の活動については学校と指導者が連携をとるような形で地域移行をしますよということである。それが全く別物になるということではないが、競技や種目によっては今まで1校で行っていたのが、2校3校で集まってやっていく可能性が出てくるというような違いはある。

○登米市PTA連合会 会長 石川 悟

- ・リーフレットの件で、どちらかというところある程度体制が整ってから配布したほうがよいのではないかという意見と、ある程度示した方がいいという事務局サイドの意見を聞いて、例えば文章表現を「令和7年度より」「令和7年度を目安に」を「令和7年度以降、その準備が整い次第進める」に変えてもいいのかなと思う。

○登米市中学校体育連盟会長（中田中校長）富士原 昭裕（会長）

- ・周知の意味でこのリーフレットを配布して、こういうふうに進んでいくという

登米市の方向性を示す。それについてのご意見等いただきながら下方修正し進めていく。今はすべて学校で行っている部活動を、まず準備の整ったところから、土日のいずれかを地域で担っていくことを周知してもらう。

(3) 部活動地域移行ガイドラインについて

○ 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）

- ・ 4の報告・説明で話した、3点についてご意見、実態を教えてください。まず1点目、8ページの上の(2)部活動用の指導手引きの普及・活用について

○ 登米市中学校長会代表（米山中校長） 佐藤 智哉

- ・ 部活動の持ち方等々の基本線を示したものは、教育計画の中に部活動計画があるが、実際、外部指導者に対してお渡しするのは、簡略化された地域クラブ活動ガイドラインみたいなものを冊子にしている。指導内容等、詳しい内容のものではない。

○ 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）

- ・ 学校では、基本線の活動計画はあるが、活動ごとの指導手引きのようなものを、学校でどの部もそろえているというところは、これまでの経験ではない。
外部のスポ少やクラブではあるのか。先行しているバスケットボールではそのような手引きはないのか。

(事務局)

⇒ 日本スポーツ協会では、競技ごと年代ごとの指導計画というのがある。バスケット協会でも、この年代にはこのような指導をしてくださいというものがあるので、多分他の競技でも年代ごとの段階的なものがあると思われる。それらを参考に調べることは可能である。ただ、吹奏楽団などについては、協会や独自のものがあるのではないか。スポーツの競技協会に登録しているところは、ホームページなどでガイドラインや手引きが出てくると思われる。

○ 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）

- ・ 細かく、学校、種目、スポ少、クラブごとにはなかなか難しいけれども、全国的に協会で作っているものがあるとのことである。

○ 登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 佐々木 悦郎

- ・ ガイドライン策定の趣旨とあるが登米市独自のものなのか。

(事務局)

⇒ 基本的には県のガイドラインを参考に取り入れつつ、登米市のガイドラインを策定している。また、今までの話し合いも踏まえつつ、他にも同じような規模の地区のガイドライン等を参考にしながら作成している。

○ 登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 佐々木 悦郎

- ・ 9ページの【ハイシーズン設定】の中で、概ね年間を通して105日以上は学校における活動を行わない日とあるが、105日の基準があるのか。

(事務局)

⇒ 県のガイドラインに記載があり、学校でも把握はしていると思われる。

○ 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）

- ・ 本校は、土日どちらか1日は休みますし、月から金曜日の1日どちらか、いず

れか1日休むので、週7日間あるうち2日間は部活動をしていない。長期休業中の休みもあるから、概ね105日以上、部活動をしない日は設定している。

(事務局)

⇒ 新たに何かを変えるわけではなく再確認という意味で載せている。

- 登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 佐々木 悦郎
- ・ 「ガバナンスコードの周知」とあるが「ガバナンスコード」の用語を一般的に使うのは難しいのではないか。

(事務局)

⇒ 確かに難しい用語だが、難しいことが書いてあるわけではなく当たり前のことや常識的なことが記されており、コンプライアンス的なものも含めて意識できると考え、文科省が示している文言を採用した。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）
- ・ 2点目、9ページの、一番下の（4）のところの1行目の最後から部活動への所属を強制しないようにするという文言についてのご意見をいただきたい。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）
- ・ 中体連の方としては、部活動の設置は各校の実態に応じて各校の判断で行っているが、校長会では、強制はしないということになっている。現実には時代の流れや世の中の多様化ということを見ると、強制というのは難しいと考える。

(事務局)

⇒ 登米市は原則部活動入部というところがあるので、このガイドラインがいずれホームページ等にも掲載されたとき、見る方によっては学校と違うのではないかとならないように校長会で確認していただきたい。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）
- ・ 市町村の中では、任意という言葉を使ったり、あえてその文言として表に出さないけれども、相談して活動に参加していないというのも認めていたり、了解しているところもある。

- 登米市中学校長会代表（米山中校長） 佐藤 智哉
- ・ 建前上は登米市の中学校では、全員加入が原則ということになっている。ガイドラインの文言を見て印象が違うなど受け取る方もいるのではないか。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）
- ・ 原則をどのように解釈するかということもあるので、表に出るものとしては、各学校、またはそのガイドラインやリーフレットも含めて同じ文言が望ましい。今後考えていきたい。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）
- ・ 3点目、小学校で今行われている吹奏楽や合唱のようなものがこの地域移行の中に、どのように取り入れていくか、どうしたらいいか意見等を出してほしい。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）
- ・ 先行の実践例を見ると小学生も参加しているところもあるが、そうしたときには小学生もいいよというような意味合いのところをどこかに付け加えるのか、付

け加えないのかということになる。

(事務局)

⇒ リーフレットも見ると、小学校もこれに準ずるところや、中学校の部活動に限るというところもある。設置校の考えも聞き、確認しながらまた提案していきたい。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）
 - ・ 4の報告・説明で話した、以上の3点についてご意見、実態を示していただいた。ガイドラインについては、説明にもあったが県のガイドラインや今までの話し合いも踏まえつつ、登米市色を出していくために今後も検討していければと思う。

(4) 登米市部活動地域移行先行実施例先行実践例について

- 登米市PTA連合会 会長 石川 悟
 - ・ 今回のアンケートから地域移行に対して課題は3つあると感じた。
 - 1つ目が指導者や場所の確保。特に指導者については、報酬のこともあるが指導者の確保というのが大事だと感じた。
 - 2つ目が安全上の不安。指導者にとっても保護者にとっても事故に対する不安や責任が出てくるのではないかな。
 - 3つ目が保護者の負担。送迎や経済的な負担が増えるのではないかな。その辺の課題など見据えながら地域移行を進めていただきたい。

- 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）
 - ・ 大きく3点についてお話ありましたが、それらを今後検討していくということですが、3つ目の保護者の負担という件については、市の補助や補助する手段としてどんなものが考えられるか、今後検討していきたい。

- 登米市中学校長会代表（米山中校長） 佐藤 智哉
 - ・ クラブチームで1発県大会に出場、クラブチーム同士で戦って代表チームが県大会出場などについては、それぞれその地区やチームの状況によって違うものなのか、例えば中体連の地区大会からの参加ではないという意味なのか教えてほしい。

- 登米市中学校体育連盟理事長（中田中教諭） 熊谷 篤
 - ⇒ 地域クラブの大会への参加については決まりがある。サッカー、バレーボール、ソフトテニス、卓球、バドミントンについては、県大会の前に競技団体で実施する予選会に参加して県大会に進むこととなっている。また、体操競技、相撲、弓道等は登米市にはないので種目については直接、県大会から中体連に参加することもある。県のホームページに記載があるが、種目ごとに違う。今年の新聞で県、東北、全国大会の結果を見ると、学校名ではなくクラブチーム名がたくさん出ている。

- 登米市PTA連合会 会長 石川 悟
 - ・ 例えば、他の市外から来て、クラブチームとして登米市の大会に出ることも可能なのかな。

- 登米市中学校体育連盟理事長（中田中教諭） 熊谷 篤
 - ⇒ 県の方に年度ごとに登録された登録団体一覧というのがあり、登録団体に所属していれば、その市の大会には出場することができる。登米市には現在、クラ

ブチームがないので、登米市の大会に参加してくるクラブチームはない。

例えば、登米市の予選会に古川の子が出ることはできない。そのまま予選を経ない場合、クラブチームの予選で県大会に行ける場合は、登米市の子、栗原市の子、石巻市の子など、市外の子供がいても可能となる。その際には、県に登録していることが前提であり、今後、少子化や生徒数によってクラブチーム登録数はかなり増えるのではないかと思われる。

(5) その他 中学校部活動の地域移行に係る指導者アンケート結果について
(事務局)

⇒ アンケート結果について、棒グラフの表記がない部分は回答なしの方という風に捉えて欲しい。

○ 登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜

- ・ 今回はアンケートの結果だけということでしたが、次の機会にアンケートを分析していただいた上で提示をしていただきたい。

○ 登米市中学校長会代表（米山中校長） 佐藤 智哉

- ・ 少子化による合同チームの件について、中学校3年間それぞれ違うチームに所属しなくてはいけない種目も出てくるという問題である。県の規定は分かるが、保護者、子供たちにとって一度つくった合同チームを解散し、また別のチームとなると心理的にも物理的にも負担がかかる。慎重に進めることも大事であるが、早くて令和12年度に中学校が4つ4地区に統合した時のことを見据えて、迅速に地域移行は進めていく必要性を強く感じる。

○ 登米市中学校体育連盟会長（中田中校長） 富士原 昭裕（会長）

- ・ 校長ではなくて中体連の立場からであるが、合同チームというものは練習をしているけど人数が足りなくて試合に出られない子供たちを何とかしたいというところから始まった。しかしながら、生徒数、部員数が減って合同チームが増えることは、誰も予想していなかった。一緒に活動や試合をしてきた保護者や子供たちを、ある時期に離すことは苦しい決断であるが、やはり規定がないと成り立たないというのも事実。地域移行がいい機会の1つになると思う。学校だけの力や中体連だけでもできないことなので、よりよい方向を皆さんと探りながら、子供たちのために進めていきたい。

○ 登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜

- ・ 第1回準備委員会の後、佐沼中校長先生、新田中校長先生との地域移行の話し合いをした。やはり学校統合の件も見据えると、お話にあったように子供や保護者にとって地域移行がいい形なのかなと思う。

○ 教育長 小野寺 文晃

- ・ 今、活動をしている子供たちのことを考えるのであれば、我々のときはこうだったとか、前はこうだった、でもそれが本当に正しいのかという視点を明確にしていけないと今回の会議で出てきた部分はクリアできないと考える。
- ・ 一つ一つ潰していかななくてはならないことも大事であるが、柱をまず立てなければという気がする。そういう意味で、この準備委員会では、こういう方向性で頑張っていくということや、こういうやり方を考えているがどうかなどの提案があると、また新たな方向性が見えてくるのではないか。
- ・ 冒頭に新田中吹奏楽部の話をした。やりたい子供は、何人だろうと一生懸命取組、自信を付けながら将来の夢につなげていく。我々大人はそのような子供たちをしっかりとフォローしていく必要がある。

• 先行実施の取組である吹奏楽の活動などが、運動部に波及していく効果も出てくるのかなと個人的に期待している。ノウハウや活動している子供たちの様子を聞かせていただいた上でどういう活動がいいのか模索することで、登米市らしい地域移行ができると思う。

6 閉会の挨拶 登米市部活動地域移行準備委員会 副会長 関 壮一

• 子供たちがあつてのステージ。皆様のご意見をいただきながら、素晴らしい登米市のステージをつくっていききたい。

7 閉会